



手際よく三つ葉の根を切りそろえる会員

みずみずしい三つ葉を収穫

稲垣地区の寿幸会(小田桐勇会長)の会員10人が2月5日、寿幸会館隣のガラスハウスで三つ葉の収穫を行いました。

三つ葉の水耕栽培は昭和61年から始められ、会員の健康増進のために年間を通じて収穫しています。この日は朝9時から作業開始し、手際よく三つ葉を洗い、機械で選別した三つ葉の根をはさみで切り落として、丁寧に箱詰めしていました。

事務局の斎藤義勝さんは「会員を増やして高齢者の健康づくりの場にしたい」と話していました。

同会は三つ葉を収穫して販売しているほか、わらぞうりの製作も行っており、売上金の一部を会の活動資金にしています。

県内初のNPO法人化 つがる市体協

つがる市体育協会(会長・福島弘芳市長)は県内の市町村体育協会では初となる特定非営利活動法人(NPO法人)として発足し、設立を記念しての式典が2月11日、松の館で行われました。

同協会は昨年11月19日に県からNPO法人の設立認証を受け、27日に法務局への設立登記手続きを終えて、正式にNPO法人となりました。

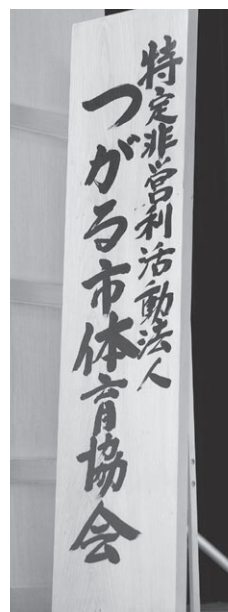
式典には来賓や関係者ら約180人が出席。福島会長があいさつを行い、蝦名武県体育協会会長らがお祝いに駆けつけ、祝辞を述べました。

また、市体協の田中正治理事長が「市民の健康増進、競技力向上、子どもたちの健全育成を目標に取り組んでいきます」と記念宣言を行いました。

式典後には(社)日本プロボウリング協会副会長の矢島純一氏が「ボウリングわが生涯」と題して記念講演を行い、祝宴で新たな門出を祝いました。



記念講演する矢島さん



事務局(稲垣体育館)に設置される真新しい看板



蓄音機から流れる名曲に聴き入る来場者

蓄音機で懐かしい 昭和の歌謡曲を鑑賞

市民の有志でつくる「昭和を聴く会 昔屋」(中野正明代表)が2月27日から3月1日の3日間、道の駅もりたアーストップ内の「萱のしずく」で、昭和を代表する名歌手のSPレコード鑑賞会を開催しました。会場内は、ゼンマイ式の蓄音機から美空ひばり、江利チエミ、三橋三智也などの歌声が流れ、訪れた人たちは青春時代や当時の情景を振り返りながら聴き入っていました。

中野さんは「鑑賞会を通じて、たくさんの仲間ができました。今後は福祉施設などを慰問して、懐かしいメロディーをお年寄りたちにも聴かせたい」と話していました。

また、古着から作ったちりめんのコート、刺し子のはんてん、小物なども展示され、訪れた人の目を引いていました。

出町さん、盛さん100歳おめでとう

2月20日、めでたく100歳の誕生日を迎えた出町サヨさんと盛トリイさんに顕彰状と記念品が贈られ、長寿を祝いました。



お祝いの言葉をかけられて喜ぶ出町さん



披露された踊りを見て楽しむ盛さん

出町さんは鶴田町の出身。旧木造町に嫁ぎましたが、第2次世界大戦で夫の高橋作次郎さんを亡くし、以来、和裁で生計を立てながら一人暮らしを続け、平成8年11月から尾野病院で入院生活を送っています。

同病院で行われた贈呈式では、成田福祉部長が顕彰状などを手渡し、茨城県からお祝いに駆けつけた甥の明夫さんが「病院職員の看護と介護のおかげで100歳を迎えることができ、感謝しています」とお礼の言葉を述べました。

盛さんは新潟県旧青海町（現糸魚川市）の出身。大戦中に東京から夫・良吉さんの出身地の旧森田村に移り住み、夫婦で雑貨店を営みました。

子ども2人、孫4人、ひ孫4人に恵まれて、平成14年8月からグループホーム「わかたけ」に入居しています。

「わかたけ」を訪れた成田福祉部長が顕彰状を贈呈。家族、職員、入居者らによる誕生会が催され、歌や踊りなどを披露すると、盛さんは満面の笑みを浮かべながら、手拍子をして楽しんでいました。

県大会優勝・全国大会出場報告

木造高女子バレーボール部

全国高校バレーボール選抜優勝大会県大会を36年ぶりに制した木造高校女子バレー部が2月16日、福島市長に喜びの報告に訪れました。

県大会決勝では弘前実業高校と対戦。2セット先取された後、第3セットから3セット連取する粘りと根性で逆転勝ち。36年ぶりの栄冠を勝ち取るとともに、26年ぶり4度目の全国大会出場を手にした。

キャプテンの黒滝千恵美さん（2年）は「たくさんの応援があって優勝できました。全国大会では自分たちのプレーをしてがんばってきます」と意気込みを語り、福島市長が「けがをしないように、頑張ってきてください。健闘を期待しています。」と選手らを激励しました。

全国高校バレーボール選抜優勝大会は、3月20日から東京で開催されます。



（前列左から）福島市長、黒滝千恵美、成田未聖、齊藤知実、森安希、木村佳菜、川村侑子、出町監督、一戸真子、（後列左から）大川校長、黒滝父母会長、長谷川コーチ



メタボ対策の栄養教室を開催

市民の生活習慣病を見直そうと「メタボに打ち勝つ食事法」講習会が1月31日、柏公民館で行われました。

講習会には市内の主婦ら20人が参加し、メタボリックシンドロームに効果的な食生活改善方法について保健師が講話を行いました。

また、調理実習では、柏地区食生活改善推進員の指導を受けながら、「長いものサラダ」や「鶏ささみのくずたたき」など、低カロリーで栄養バランスのとれた料理を作りました。

雪の滑り台に子どもたちが歓声 — ウィンターフェスティバル

1月31日と2月1日の2日間、道の駅もりた「アーストッ」でウィンターフェスティバルが開催され、多くの来場者で盛り上がっていました。

会場では、雪の滑り台そり競争や雪上パン食い競争などが行われ、参加した小学生らは歓声を上げながら楽しい時間を過ごしていました。

また、道の駅敷地内にある旧増田家では、ライオンズクラブ主催による「5ニンカントランプ大会」も行われ、約60人の参加者が車座になって技を競い合っていました。



生バンド演奏と歌を楽しむ — ぎんなん荘

音楽愛好者で結成しているバンドグループ「スイングアーツ」（小見山利正代表）が2月1日、ぎんなん荘を訪れ、入所者に生バンド演奏と歌を披露しました。

ぎんなん荘を慰問するのは今回で8回目。心待ちにしていた入所者は、聞き覚えのあるなつかしのヒット曲や演歌などに合わせて、手拍子をするなど約1時間のミニコンサートを満喫し、バンドメンバーたちは「来年もおじゃまするので、それまで元気でいてくださいね」と励ましの言葉を掛けていました。

男子は柏小、女子は瑞穂小が優勝

平間旗新人ミニバス大会

第22回平間旗争奪西北五新人ミニバスケットボール大会の準決勝・決勝が2月1日、柏総合体育センターで開催されました。

同大会には西北五地域から男子9チーム、女子19チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。男子の部の決勝では、柏小が鶴田クラブを102対30の大差で勝ち、女子の部の決勝では、瑞穂小が五所川原みなみスポーツ少年団と接戦のすえ、25対21で栄冠を勝ち取りました。



ワカサギ釣りを楽しむ

牛瀧大溜池

晴天に恵まれた2月5日、牛瀧町の大溜池で太公望たちが、ワカサギ釣りを楽しんでいます。

この日、ワカサギ釣りをしていたのは、市外からの人が多く、青森市から訪れた人は、朝7時30分に到着し、夕飯のおかずになればいいなと話していました。

太公望たちは、氷上に20センチほどの穴を開け、40センチ前後の短竿にエサ（紅サシ）を付けて糸を垂らし、慣れた手つきで次々と釣り上げていました。

ヤリイカの水揚げに沸く

車力漁港

ヤリイカ漁の旬を迎えた2月5日、車力漁港の荷さばき場がヤリイカの水揚げでにぎわっていました。早朝から漁に出た4隻の船が漁港に戻ると、漁師や漁協関係者らがヤリイカを船から降ろし、水洗いをした後、氷の敷き詰めた箱に並べ、トラックに積んでいました。

また、この日はヤリイカの他にもヒラメ、鰯、ミズタコも大量に水揚げされ、漁師からは喜びの歓声が沸き、今後も漁が好調であればいいなど期待を膨らませていました。



地域住民と進級を祝う

ひなた児童会館

ひなた児童会館を利用している児童らの進級に伴い、地域住民を招待しての進級お祝い会が2月7日、同会館で行われました。

今回のお祝い会には、五所川原第一高等学校三味線クラブがお祝いに駆けつけ、児童に三味線を弾かせて交流を深めました。

また、紙芝居を使って津軽三味線の由来をわかりやすく説明したり、童謡や民謡などを三味線で演奏し心に響く津軽の音色を披露しました。



木造中「親父の会」が除雪ボランティア

木造中学校に通学する生徒の父親で結成する「親父の会」（高橋勝幸会長）のメンバー12人が2月8日、通学路の安全確保をしようと除雪作業に汗を流しました。

除雪作業を行った歩道は校門前の約130m。メンバーはスコップや除雪機を使って、固く積もった雪を約1時間かけて片付けました。

同会は除雪ボランティアのほか、年3回、校門前であいさつ運動を展開し、活動を通じて生徒とのコミュニケーションも図っています。



学校生活に夢膨らませ 北五つがるの新一年生が集う

「第33回新一年生おめでとう北五つがる大会」（陸奥新報社主催）が2月18日、五所川原市のオルテンシアで開催され、五所川原市、つがる市、北郡の新一年生と父母ら約1700人が参加しました。

福島市長は「よい子のみなさんは、朝ご飯をしっかりと食べて勉強してください」とお祝いの言葉を述べ、五所川原警察署の女性警察官による交通安全のお話や山崎トオルさんによるスーパーマジックショーが行われ、子どもたちは楽しいひとときを過ごしました。



獅子踊りを下級生に継承

育成小学校

さんぼうあらがみかしまじし

「三方荒神鹿島獅子踊りの引継ぎ式」が2月23日、育成小学校で行われました。240年ほど前から相野地区に伝わる伝統芸能の三方荒神鹿島獅子踊りは、昭和59年から育成小学校の児童らによって受け継がれています。

引継ぎ式では、6年生が5年生に保存会旗を手渡し、3年生から5年生までの児童27人が囃子や獅子踊りを披露しました。

また、卒業する6年生からは「この伝統をいつまでも受け継いでいってください」と下級生にメッセージが伝えられました。

